



■プロフィール
大正6年、清水市生まれ・昭和35年静岡県中小企業団体中央会専務理事、50年同理事長を経て、57年より同会長、現在政府税制調査会委員・職員から「おやじ」の愛称で呼ばれる氏のモットーは「人見るもよし、人見ざるもよし、我は咲くなり」・趣味はゴルフと読書・血液型A

この人と30分

ぶらり訪問⑥



立体感のあるシステム産業に。

静岡県中小企業団体中央会
会長 **井上光一** 氏

訪問インタビュー第六回は、本県協同組合の指導団体、中央会の井上光一会長。去る五月中旬、ご多忙の会長室をぶらり訪問。リーダー論から団体運営まで幅広い話題でお話した。

Q、会長として一番印象深いひと、組合運営は？

組合人としては清水の新聞伊津平さん。何故協同組合を作るのか、まとまらねばならぬのか、と理論攻勢から現実論を説いた。組合を大事にし、育てあげた行動力もさることながら、協同組合の真髄を理解していましたね。

一方、運営面では協同組合同士の連携ですね。沼津地区の運送と魚伸の協同組合間の連携は、首都圏へのひもの搬送に効果をあげた好例です。その他にも伊豆の土産物と旅館の両組合間など規模の大小はともかく、百近い組合が連携事業を進めています。

Q、事務局の育成上、留意点は？

常にやった仕事を評価してやる、これが基本です。職員には協同組合回りをし、受けた相談をヒントに新しいシステムを創り出すよう、常に

チャレンジする姿勢を強調しています。具体的には、団地作りとなれば集積化に向け、農協などと提携し土地の創出をはかる。組合法の員外利用制限には、準組合員制度で応ずるための法律の読み替えを検討、提案するなど、より高度な組合法の運用を心掛けています。

また中央会は生え抜き職員ばかり

で、いわば純血主義。純血ゆえの弱さを補うため、課長職に商工中金から現役を迎えています。新しい血を入れることで、双方の論理がぶつかり合い、刺激を受け、競争心も湧く。この人事交流は好結果を生んでいます。

Q、行政との付き合い方は？

中央会では、少なくとも中小企業に関連する、あるいはこれに近い範囲の審議会、委員会には全て役員を派遣し、様々な分野で交流、タイアップできるような心掛けています。また特に県の商工労働部とは毎年意志疎通のための場づくりをするなど、本会事務局との胸襟を開いた人間関係の醸成にも努めています。

Q、リーダーに大切なことは？

良きリーダーは、持って生まれた

素質と育てられる部分とが半々だと考えます。ともあれ、移り変わる時代背景の中で特に悪い時にどうするか運営努力が大切です。私は積極論者だから目標を設定したら、追い付き、追い越せの姿勢ですが、改革に対する大胆さと弛まぬ前進努力が一番大切なことではないでしょうか。

Q、最後に木材業界に向けて、ひとこと。

木材業界の方は繁盛の時期が長かったし、日本人の生活分野の中で木材の占める割合が非常に大きかったため、売る方も使う方も学び損ねた面があるように思います。木材だけの分野に閉じ籠っていないで、他資材との複合、他業界との連携をもつと強気に進めるべきです。

一例をあげれば家具のユニット化。弱電、建材メーカーが開発し、儲けをみんな持って行かれている。なぜ建築や木材業界主導でこれに取り組みまないのでしょうか。

まず、徹底したブレインストーミングを通して業界の持っている知識を絞り出すことです。木材業界は、消費者ニーズに合った立体感のあるシステム産業に組み替える時期に来ていると思います。(文責 編集室)